

株式会社 西沢インダストリー

ものづくり技術

ダイレクトブロー成形を新たな強みとし 新たな需要取り込みを目指す

事業内容

プラスチック成形品を製造 充実した設備と若手人材が強み

2008年(平成20年)4月、代表取締役である西沢勝次氏の父が経営する「株式会社西沢」のプラスチック成形部門を分社化するかたちで設立された。

主な製造品目は、プラスチック食品容器および日用雑貨品である。本社・第一工場では梅干し容器やキムチ容器といったプラスチック食品容器を製造し、第二工場では生活用品雑貨全般の製造を行っている。同社の製品は、海南省および東京都の商社経由で全国の百貨均一ショップに流通している。

製造技術面では、インジェクション成形機、ダイレクトブロー成形機を複数台保有していることからパーツのみの生産だけでなく、完成品を納品することが可能となっている。PET樹脂を用いた完成品を数千個程度の小ロットから対応できる企業は少なく、同業他社との差別化要因となっている。

また、生活用品雑貨の製造は20代、30代の若手社員が担っており、若い力が着実に育っていることも同社の強みである。

補助事業

ダイレクトブロー成形機の導入 競争力強化と市場ニーズへの対応

大量生産が可能なインジェクションブロー成形を行っているメーカーは和歌山県内に複数あるが、ポリエチレンを原材料とするダイレクトブロー成形による半透明な食品容器を製造できる企業は県内に数社程度である。さらに、PET樹脂を原材料としてダイレクトブロー成形によって透明な食品容器を製造している企業に関しては県内にない。

同社が得意先各社からの要望を整理・分析していくと、ダイレクトブロー成形を用いた半透明・透明な食品容器を小ロットで製造してほしいとの声と比較的多かった。同業者(プラスチック成形業者)が対応するのが容易ではないダイレクトブロー成形を強化していくことが、他社との差別化につながっていくものと考えられた。市場からは、多品種少量生産、安定した品質を求める声は高まるばかりで、ダイレクトブロー成形の強化は複雑化する要望に応えること

ができる可能性もあった。

そこで、今回の補助事業では、ダイレクトブロー成形機を導入し、競争力強化を図るとともに複雑化する要望に対応できる体制を整えることを目指した。



▲ダイレクトブロー成形機

株式会社 西沢インダストリー

代表取締役 西沢 勝次
〒640-0421 紀の川市貴志川町北1232-5
TEL: 0736-64-7188 FAX: 0736-64-1938
URL: http://nishizawa-ind.com

(業種)樹脂製品製造
(設立年月日)2008年4月
(資本金)10,000千円
(従業員)25人

成果

新設備導入後は微調整の繰り返し 販売面では一定の成果

今回の補助事業でダイレクトブロー成形機を導入し、透明な容器の製造を試みたが、導入当初はイメージ通りの厚みが出ず、均一に仕上がらなかった。その課題を解決するために、肉厚をコントロールできる装置を新たに設置するとともに成形温度・型締めタイミングなどを4カ月程度にわたって微調整を繰り返した。また、作業方法の改善を行うことで、効率的で安定した品質の製品を作ることができるようになった。

本事業の成果としては、和歌山県内では唯一となるPET樹脂を原材料とするダイレクトブロー成形が可能となったことで、他社との差別化を図ることができた。販売面においては、食品容器のうち海苔の容器を1万個新規受注するなどの成果があった。概ね当初想定していた通りの機械の稼働率となっており、引き続き、既存得意先との取引深

交を図っていく予定である。

同社の場合、具体的な販売成果だけでなく、機械設備導入により社内のモチベーションも高まった。ダイレクトブロー成形を用いた新製品の考案などで社内活性化にもつながっている。



▲検品風景

今後の展開

新たな需要の取り込み 中長期的には自社オリジナル品の製造も

同社は分社化によって設立してから日が浅いものの、2年前には第二工場を建設したことに加え、積極的な設備投資も進めてきている。受注対応できる製品の幅は拡大してきており、生産能力も高まっている。製造面では、加工技術の精密性の追求、不良率の低減など改善の余地は残っており、この点をさらに極めていく。

今後は、他のプラスチック成形業者が対応できなかった案件を取り込みつつ、和歌山県外からの問い合わせにも対応していく予定である。

また、現状としては、得意先の要望を反映した製品づくり、得意先の仕様に基づいた製品づくりを行ってきたが、中長期的には、食品容器・日用雑貨の自社オリジナル製品の製造を行うことで提案型の営業も進めていきたいと考え

ている。

自社オリジナル製品を作り上げ、企業としてひとまわり成長するためには、若い力をどの程度引き出せるかが鍵になってくると思われ、西沢社長の手腕に期待したい。



▲第二工場外観